

春子発生時の散水について

1 はじめに

春子発生時に乾燥した天候が続いた場合、散水は発生・生長促進に非常に有効な方法です。

しかし、水の便が悪いホダ場では集水量が少なく、長時間散水することはできませんので、散水は、節水を心がけて下さい。

2 散水の時間帯等について

(1) 時間帯

早朝または夕方・夜間に行ないます。日中に行なうと、気温の上昇とともにホダ木の水分が蒸発しやすくなってしまいます。

(2) 間隔

貯水量が少ない時で、乾燥が続いている場合は3日毎に1回、1時間でも行なって下さい。

なお、吸水効果を高めるために、初め少し散水してホダ木を湿らせてから本格的に散水を行なうと水分の吸収が進みます。

(3) 散水の目安は、新しいホダ木で1割程度、古いホダ木で2割程度重量が重くなるまで行います。

十分な水量が確保できない場合はホダ木を湿らせる程度でも行なって下さい。

(4) 散水後の処置

散水した後は被覆資材を使用してホダ木を覆い水分の蒸発を防ぐようにして下さい。

平年より低目の気温ならばビニールなど温度が上がりやすい資材を、高目ならば断熱効果のあるアルミ蒸着シートなどを使用して下さい。

3 散水の方法

揚水ポンプを使用する場合と、高い所にタンクを置いて行なう落差式が、主な方法です。

落差式を使用する場合は、高い所にタンクが設置している必要があります。

(1) スプリンクラー

樹脂製のもはホームセンターで1基500円前後で販売されています。

平面に置くものと、地面に突き刺すものがあります。地形や使用方法により使いやすい物を選定してください。

(2) 散水チューブ

散水用の穴が小さいので砂などが詰まりやすいのが欠点です。しかし、ホダ場のうち、長くホダ木を組み込んだ場所では使用しやすい資材です。

貯水量が少ない場合には、水压を弱めてコックを締め気味にし、点滴状にホダ木に散水します。

この場合には、並べてあるホダ木全部にかけようとせず、かけやすいホダ木にだけかけて下さい。

4 散水対象ホダ木の選定

ホダ場では、ホダ木全部に散水するのが望ましいところですが、貯水量が少ない場合は散水対象を絞り込みましょう。

発生初年度のホダ木(植菌後2年目)は、ホダ木内に水分があるので、降水で発生量が大きく左右される発生2年目のホダ木(植菌後3年目)を中心に散水して下さい。

5 散水をより効果的にする作業

防風ネットを設置したり水分を蒸発させないように被覆資材を活用しましょう。降雨があった直後にも被覆して水分の蒸発を防ぐ方法もあります。

(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 小原孝文)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410
-----	--	--------------------------------------